

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	建築一体化空調小委員会		主 査 名：石野 久彌 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：吉田 治典
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	建築一体化空調の設計指針の提案と建築・設備教育の提言のために、 (2005-2006 年度) 各種建築一体化空調システムの設計事例・研究事例の収集、性能分析、教育事例収集 (2007-2008 年度) 事例紹介・設計法・理論に関する最新情報を発表する出版物「建築一体化空調」の具体的内容の作成・検討、新時代の設備技術者を育てるための建築・設備教育法の提言案の作成・検討		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り 石野久彌(首都大東京)、羽山広文(北海道大)、郡公子(宇都宮大)、猪岡達夫(中部大)、宇田川光弘(工学院大)、奥宮正哉(名古屋大)、川瀬貴晴(千葉大)、近藤靖史(武蔵工業大)、下正純(竹中工務店)、長井達夫(東京理科大)、丹羽勝巳(日建設計)、丸山純(松田平田設計)、柳井崇(日本設計)、柳宇(国立保険医療科学院)、吉牟田圭一(日比谷総合設備)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2007 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s10/	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし。ただし、出版物として「建築一体化空調」をまとめることを目指し、章構成と内容の検討、最新の環境配慮手法の調査を行った。また、ホームページで審議内容を公開した。
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 1 回 建築と設備の一体化シンポジウム 参加者数 約 150 名 環境に配慮した建築のコラボレーション - 建築と設備の一体化 - 2. 第 2 回 建築と設備の一体化シンポジウム 参加者数 約 200 名 「不都合な真実」と「建築」(環境工学の立場から)
大会研究集会	なし。ただし、オーガナイズドセッション「建築一体化空調の実測評価」を提案し、4 編の発表論文を得て、活発な議論を行った。
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 学生対象のシンポジウムを計画・実施し、盛況であった。達成度は 100%。 2. 建築一体化空調に関する出版物の内容検討を行い、最新環境建築の事例調査を行った。達成度は 80%。
委員会活動の問題点・課題	東京以外の委員が多く、旅費不足の問題がある。しかしこれを活かして、委員が在住する都市におけるシンポジウム開催を来年度も計画している。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今年度の具体的活動は次のようなもので、当初の目標を、ほぼ十分に達成したといえる。</p> <p>1. 建築学生のための「建築と設備の一体化」シンポジウムの開催 学生が建築・設備の魅力を知り、職能の理解を深めることが重要であるとの視点にたち、学生を対象とするシンポジウムを企画し開催した。委員が講演者となり、公開委員会形式で開催した。</p> <p>(1) 第1回 建築と設備の一体化シンポジウム(参加者約100名) ・日時:2007年5月15日、場所:北海道大学 ・テーマ:環境に配慮した建築のコラボレーション - 建築と設備の一体化 - ・内容:「第1部 環境に配慮した建築の事例とこれを実現する方法」では、設備設計者の委員が、環境建築の設計事例を通して設計法や考え方を講演、「第2部 環境に配慮した建築の実現に向けた教育」では、大学教員の委員が、学生参加型授業の工夫と効果を紹介、「第3部 私たちの望む授業(ワークショップ)」では、学生によるグループディスカッションと発表を行った。シンポジウム後に評価アンケートを実施し、学生の満足度が高いことも確認した。</p> <p>(2) 第2回建築と設備の一体化シンポジウム(参加者約200名) ・日時:2007年7月31日、場所:千葉大学 ・テーマ:「不都合な真実」と「建築」(環境工学の立場から) ・内容:「第1部 地球環境問題対応に関わる研究の現状」として、大学研究者の委員が、省エネルギーの評価法や技術の開発法を講演、「第2部 最近の建築に見る地球問題対応の現状」では、設備設計者の委員が、環境建築の設計事例を通して設計法や考え方を講演した。2学年の授業時間を利用し、千葉大学の多くの学生、また首都圏の大学からも学生が参加し盛況であった。</p> <p>2. 建築一体化空調の最新事例収集と「建築一体化空調」出版物検討</p> <p>(1)環境建築事例と環境配慮手法の収集と検討 ・セラミックプリントガラスのルーバ付き透明ペアガラスの大規模アトリウムのもつ美術館を実地調査し、環境配慮手法を確認した。 ・環境配慮手法の事例として、木材を多用し、クールヒートチューブ・太陽電池を採用する町庁舎、ダブルスキン・クールピット・井水利用外気処理システムを採用する県民センター、設計事務所のコンペ提案例などを収集し検討した。</p> <p>(2)「建築一体化空調」出版物の内容検討 ・目次の構成、「見る」、「使う」、「学ぶ」の担当案、各章の容量などに関して、審議を続けた。情報の収集方法、公開方法などについても検討を行った。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価:小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価:小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価:小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価:小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。